



発行日：令和2年9月15日 第89号

発行元：松本市市民活動サポートセンター
〒390-0874 松本市大手 3-8-13
松本市役所大手事務所 2 階

TEL/FAX：0263-88-2988

E-mail: support-center@support-center.jp

URL: <http://www.support-center.jp>

視察研修 報告

7月9日・10日の2日間で長野市・塩尻市・安曇野市のサポートセンターへ、視察に行ってきました。

長野市の『市民協働サポートセンターまんまる』は、長野市内の複合施設ビルもんぜんプラザの4階にあります。

市からの委託を受け NPO 法人長野県 NPO センターが運営を行っています。独自のイベントが毎月開催され、そのイベント量の多さにとても驚きましたが、4名のコーディネーターがそれぞれの得意分野を活かして企画しているとのこと。時には参加者0人の時もあるそうですが、それでも「何かやりたい!」という強い気持ちが伝わってきました。

塩尻市の『市民交流センター』は、複合施設えんぱーく内にあり、建物は3方がガラス張りで開放的な印象でした。協働オフィスが備わっていたり、営利目的でも利用できる会議室、床や壁の貸出しを行っているなど、えんぱーくの特徴がいくつかありました。

イベントは年間で複数回開催しており、複合施設を活かし開催しているものや、塩尻市内の NPO 団体へ委託し、行われている事業もあるとのことでしたが、子ども向けのイベントが多く興味深く思いました。

安曇野市の『市民活動サポートセンター』は、安曇野市役所地域づくり課内にあります。市役所1階のくつろぎ広場には、情報コーナーが設けられ、サポートセンター登録団体のチラシなどが設置されていました。

協働コーディネーター養成講座を開催しており、講座修了者は「市民活動サポーター」として活動し、市民活動団体などの取材や、情報収集への協力をしているとのこと。

セミナーや講座終了後には参加団体で交流会を行うなど、団体同士のつながりに発展できるよう工夫されていると感じました。

今回視察をさせていただいたことで、それぞれのサポートセンターの在り方を知ることができ、とても勉強になりました。今後の活動の参考にさせていただきたいと思います。

長野市・塩尻市・安曇野市で対応くださった皆様、ご多忙の中、親切にご対応くださり、ありがとうございます。

市民活動団体交流会を開催します！

市民活動サポートセンターでは、毎年、市民活動団体の文化祭「市民活動フェスタ」を開催し、団体の活動を市民の皆様に紹介してきましたが、今年度は新型コロナウイルスの影響から、例年どおりの内容や方法で開催することができません。そこで、今年度は、他団体との情報交換・交流を目的とした内容で開催することとなりました。

2回のアンケートを実施させていただいた結果、11団体の参加申込みがありました。アンケートへのご協力ありがとうございました。

団体同士の交流会は初めての試みですが、団体の情報交換や、団体同士の親交を深めていただき、今後のつながりに発展していければいいなと思っております。

また、11月3日(火)から11月30日(月)までの期間、サポートセンター内で交流会へ参加する団体のパネル展示を行います。ぜひ、ご覧ください。

【登録団体交流会、参加団体】

- ・溪流保護ネットワーク砂防ダムを考える
- ・水と緑の会
- ・松本ホテル学会
- ・NPO 法人石窯スマイル研究会
- ・松本市民音健士の会
- ・松本子育てコミュニティサイト「はぐまつ」
- ・地球環境フォーラム
- ・NPO 法人えんのわ
- ・NPO 法人わおん
- ・まつもと震災支援ネット
- ・ナルク信州まつもとだいら

「愛剛正」会

代表理事：るうま 彩夕里

Mail : ai.gousei77@gmail.com

☞ 教育革命を、"支援者" 集めます!

☀️「愛剛正」会とは、
「愛」慈しむ真心、
「剛」自己に挑む真心、
「正」あきらめない!
「真のこころ」を差す。



*代表の彩夕里さん

「愛剛正」会、発足に
おける熱い思いを話
していただきました。

「愛剛正」会は、「学童保育」（児童・幼児教育）そして、「親業共育」（子守教育）のあるべき姿を探究し、その実現に向けて 2019 年活動をスタートさせた団体です。目指すは、子ども達そして、わたくし達の「生き抜く力」基盤となる“まごころ教育”礎＝「感情教育」の実現

「生き抜く力」に必要なのは、IQ：知能指数に対して、“こころ”の知能指数＝EQ（感情知能力）とも表現される能力＝非認知能力なのです。それは、五感・感性を磨く「感情知能力」高めることこそ、夢実現に向けた“やる気”生み出し、その信念の強さ、高志は「生き抜く力」ツクルという考え方に基づいています。

「感情教育」実現に想いを馳せた経緯は、学生の頃に幼稚園教諭・保育士を志し、子ども達のあるべき姿、個性・特性を伸ばす児童教育を学んだことにあります。決められた時間割りを“みんないっしょ”に行動することなく、自ら興味をもつ“あそび”をどこまでも探究する「遊びの時間」の重要さを学びました。その中にこそ、達成する喜び＝達成感、挑戦する勇氣＝挑戦心があり、創造力・発想力を育む種子があるのです。このような環境を創り出すことは、教育者そして、親業を担うわたし達の

役割であり、子ども達の意志・意思を尊重し、個性を認めることは、相手そして自身を愛する“まごころ”紡ぐと、いえます。その根底には「いたわり」という感情があり、それは「感情教育」の源＝「感謝、感動そして共感」“まごころ教育”育む神髄であり、人生における“根っこ”の部分になる、と思っています。わたくしの信念として、“感性”こそ、「いき抜く力」である、という考え方があります。感性とは命そのものであり、言い換えれば「まぎれもない自分自身」のことを差します。感性が鈍いということは、命が鈍いということであり、知性や理性のみでは、“いのち”はつぐれない。「愛剛正」会発足に至った背景には、発達障害における教育の在り方等、“個”を生かす共生社会の実現、そして“いのち”自ら断つ若者をこれ以上、増やしたくないという思いがあったからです。

コロナ感染拡大により、延期になった特別講師によるセミナーは、9 月中旬以降に様子等を鑑みて再開催を検討中ですと、意欲的に語ってくれました。

コロナ禍で、人とのつながりについて改めて考えさせられる昨今、大事な話を聞けました。

NPO 法人石窯スマイル研究会

代表者：桐原 眞幸

住所：松本市横田 4-1-1

URL : <http://smilestone-labo.com/>



*代表の桐原さん

自宅の石窯で、ピザを
焼いている様子。

「子どもの頃、野外で遊ぶのが好きだった。」そう話すのは、NPO 法人石窯スマイル研究会代表の桐原眞幸さんです。桐原さんは会社を退職後、趣味のあった石窯づくりと、子ども達に野外での体験をしてほしいという想いから、2016 年 6 月にこの団体を立ち上げました。

『ある日、「附属小 6 年生が、4 年生の時から育てている麦を小麦粉にして、窯を作って焼いたピザが食べたい」という新聞記事を目にし、手紙を書きました。すると早速担任の先生から「協力をお願いしたい」と連絡があり、体験もかねて、こねた生地を伸ばし野菜を自分でトッピングして、自宅の窯でピザを焼いて食べてもらいました。

その後、卒業記念に生徒達が中庭へ石窯を作ることになり、3 月の発表会に招かれ石窯で焼いたピザをご馳走になりました。その時の生徒達の喜んだ顔が、とても励みになりました。

日本郵便のチャレンジコースで、青少年の健全育成への助成をいただいたことや、環境政策課のエコスクールにも登録して、公的に発信できるようになり、助成金で子ども達にも分かりやすい石窯のテキストを作

りました。「火のないところで焼けるのはなぜか?」など、石窯に関心を持ってもらいたいです。

熊本地震で、電気・ガスが止まり、温かい食事が不足している中、石窯で焼いたピザを提供した方がいるという記事を読み、長野県で災害が起きた時のために、移動式の石窯を作り、さらに二層式にすればどこにでも移動ができると考え、災害時に役立てたいと思っています。

今後、まずは体験会を開き、移動式の石窯のお披露目も秋に予定しています。それに伴い石窯の作り方と楽しみ方のセミナーも開きたい。また、同じような活動をする方を募集したい。』と話していただきました。

環境整備という点で奈良井川のアカシヤ伐採で出た薪を使い、地産地消として地元で採れた野菜をトッピングとして使ってコミュニケーションをとりながら、火を起こして共同作業をする。これらの循環がこれから生きていく子ども達に伝えられると、心の豊かさが育まれると思いました。昔からの知恵と行動を大人から学ぶことは、この時代にとっても大切なことだと思います。

高温で短時間に美味しい調理のできる石窯については、「石窯スマイル研究会」HP をご覧ください。(丸山)

支える人たち

『遊ボール松本プロジェクト』

最近の子どもは、小さなボールを投げて遊ばないため、ボール投げの能力が低下していることが心配されています。そんな中、ボール遊びを通して子どもの運動能力を育てる「遊ボール松本プロジェクト」が設立され、園児を対象に市内の幼稚園、保育園で活動しています。どんな活動をされているのか、運営委員の林謙一理事長にお話をうかがいました



一活動のきっかけは？

私は松本市野球場の管理をしています。野球場の周りの保育園や幼稚園から、野球場に入りたいという要望がありました。保育士さんから、今の子どもはボールを投げるのが苦手だということを聞いて、せっかく近くに野球場があるのに、活用しないのはもったいないと思い、近所の保育園児にボールを投げたり、捕ったり、打ったりを体験してもらったのが始まりです。平成28年から活動を始め、本格的にプロジェクトとして始動したのは平成30年から、14園で実施しました。園児達とボールで遊びながら、分かりやすく工夫したメニューを考案して人気となり、他の保育園からも「ぜひ来てほしい」と言われるようになりました。

一どんな運動教室ですか？

市内の保育園、幼稚園の年長園児を対象に、園庭や近くの体育館をお借りして、ボール遊びを通して野球の楽しさと面白さを教えています。一回の教室は1時間ほどで、「ストラックアウト」や、バッティングの練習に「だるま落とし」をやってボール感覚を養います。野球を専門に教えるのではなく、小さなボールを使って楽しく遊ぶことが目的です。園児達に投げる動作や、やり方を工夫して教えてあげると、簡単に投げられるようになります。

また、準備体操の中に野球の動きを入れながら、園児達が楽しく体を動かせるようにオリジナルの「遊ボール体操」を作りました。「夢をかなえてドラえもん」の曲に合わせて体をほくします。回を重ねていくほどに、子ども達の成長が目覚ましく、やりがいがあります。

昨年11月4日に、これまでの集大成として「遊ボール松本」に参加してくれた園児達を松本市野球場に招待し、親子野球教室を開催しました。ジャイアンツのOBの選手を呼んでの野球教室やお楽しみ抽選会など、イベント盛り沢山で好評でした。

一指導するスタッフは？

松本市野球場の事務局、松本大学硬式野球部、松本大学女子ソフトボール部、松本市少年軟式野球チーム、松本市リトルリーグ野球協会チームの指導者の皆さんで協力して進めています。保育園にユニフォーム姿で訪問すると、園児達は笑顔で夢中になって体を動かしてくれます。

野球の場合、基本はキャッチボールなので、1対1でやることを目指しながら取り組んでいます。

一活動する上で大切にしていることはありますか？

地域との連携を大事にして、子どもが野球に出会うきっかけになればと期待しています。

スポーツには、時を超えて訴える力があります。時が過ぎても、思い出はいつでもよみがえりますから、子ども達にもその感動を体感してほしいですね。

長野県青少年野球協議会で作っている子どもの野球育成部門の中で、「遊ボール松本」は幼児の部門の一翼を担っていると自負しています。昨年から、一部の小学一年生を対象にも指導を始めたところです。

また、この活動が中信地区で盛り上がっていて、昨年8月に塩尻支部を立ち上げました。県内でも関心が高いので、活動の輪を広げていきたいと思っています。

「遊ボール」を体験して、野球に興味を持ち、チームに入って本格的に野球を始めたというお子さんもいるんですよ。

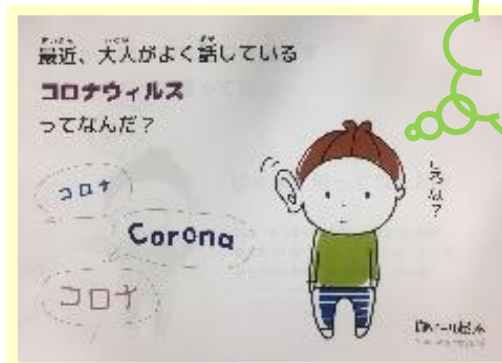
一6月に活動再開の新聞記事を拝見しました。

コロナウイルスの影響で、残念ながら今回は1回しか活動できていません。「遊ボール松本」を忘れないようにと、コロナウイルスの話を子ども向けに分かりやすくした紙芝居を作り、各保育園に配りました。コロナ禍で混乱していて、活動の方も先行き不確かです。今は、コロナウイルスの早い終息を祈るほがありません。

サッカーに関心のあった子ども達が「遊ボール松本」を通して、野球にも親しみと関心が持てた、と保育園から感想が寄せられていました。

『まだ活動は始まったばかりですが、将来、高校球児が「遊ボール松本」がきっかけで野球を始めた。』と話してくれたら本望です。』と、林さん

これからも、子ども達に野球の魅力や楽しさを伝えていってほしいと思います。(インタビュアー：塚原)



紙芝居
「コロナウイルス
ってなあに？」

■イベント情報 & ボランティア募集情報

◇イベント情報

9月 「ばそこん基礎講座」

会場：塩尻市市民交流センターえんぱーく 2F ICT ルーム

日程：文字入力の基本

9月25日・28日・29日 10:00～12:00

受講料：1,800円 テキスト代 450円

申込み：特定非営利活動法人グループ HIYOKO

Eメール：pchiyoko@ghiyoko.net

問合せ：塩尻市市民交流センター 交流支援課

TEL：0263-53-3350

FAX：0263-53-3362

※塩尻市にお住まいの方でなくても申込みいただけます。

◇イベント情報

令和2年度まちチャレセミナー

活動を知ってもらうコツ～チラシ・ポスターづくり～

日時：10月3日(土) 13:00～16:00

会場：塩尻市市民交流センター(えんぱーく)

3F 多目的ホール

対象：地域活動を実践している方や、関心のある方

活動を発展させたいと考えている方 など

定員：20名程度

参加費：無料

内容：チラシやポスターをつくるワークショップ

広報の基本について学ぶ

申込み・問合せ

塩尻市市民交流センター 交流支援課

TEL：0263-53-3350 / FAX：0263-53-3362

NPO 法人えんのわ(業務委託 NPO)

TEL/FAX：0263-54-3320

◇イベント情報

10月 「ばそこん基礎講座」

会場：塩尻市市民交流センターえんぱーく 2F ICT ルーム

日程：Word2019 前半

10月5日・6日・8日・9日 10:00～12:00

Word2019 後半

10月12日・13日・15日・16日 10:00～12:00

受講料 2,400円 テキスト代 2,200円

申込み：特定非営利活動法人グループ HIYOKO

Eメール：pchiyoko@ghiyoko.net

問合せ：塩尻市市民交流センター 交流支援課

TEL：0263-53-3350

FAX：0263-53-3362

※塩尻市にお住まいの方でなくても申込みいただけます。

◇ボランティア募集情報

SAD サークル Nagano あがり症の交流会

軽いあがり症～過度な緊張感(社交不安症)の交流会

※新型コロナウイルス感染症の予防対策を実施し

て、活動しています。

対象：一緒に楽しくお喋りし、カフェ巡りに

参加してくださる方♪10代～40代

日時：毎月第2・4日曜日 13:00～15:00

会場：松本市市民活動サポートセンター

※ボランティアさんも月会費 500円

(学生免除)

問合せ：SAD サークル Nagano

090-6539-1363(宮下)

sad_nagano@yahoo.co.jp

■サポートセンターより

お願い

新型コロナウイルス感染防止のため、ご利用される際は手指の消毒、マスクの着用、人との間隔を最低 1m空けていただきますようお願いいたします。

感染者が発生した場合の保健所が実施する行動調査、接触者調査のために、利用者名簿の記載にご協力ください。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

プラサポにゅーす 第13号 発行!!

今回は、昨年11月～2月までの活動、プラチナサロンや新春寄席の様子を紹介しています。ぜひご覧ください。

※プラチナサポーターズ松本の今年度の活動については、未定となっております。

編集後記

梅雨明けから一気に暑くなり、猛暑日が続いた今年の夏でしたが、朝晩は涼しく、過ごしやすくなりましたね。

これからは、秋の味覚が美味しい季節です。たくさん食べて秋を満喫しましょう。

さて、新型コロナウイルス感染症のまん延防止のため、中止していた「Close Up」の取材を再開させていただくことになりました。

掲載を希望する団体はご連絡ください。団体の情報発信にご活用いただければと思います。

ご連絡お待ちしております。(犬飼)